



Red Hat OpenStack Platform 16.2

Service Telemetry Framework リリースノート 1.4

Service Telemetry Framework 1.4 のリリースについて

Red Hat OpenStack Platform 16.2 Service Telemetry Framework リリース ノート 1.4

Service Telemetry Framework 1.4 のリリースについて

Enter your first name here. Enter your surname here.

Enter your organisation's name here. Enter your organisational division here.

Enter your email address here.

法律上の通知

Copyright © 2022 | You need to change the HOLDER entity in the en-US/Service_Telemetry_Framework_Release_Notes_1.4.ent file |.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

このドキュメントでは、Service Telemetry Framework の本リリースにおける主な機能、強化点、および既知の問題について説明しています。

目次

前書き	3
多様性を受け入れるオープンソースの強化	4
第1章 SERVICE TELEMETRY FRAMEWORK リリースの概要	5
1.1. 製品サポート	5
第2章 SERVICE TELEMETRY FRAMEWORK のリリース情報	6
2.1. SERVICE TELEMETRY FRAMEWORK 1.4	6
2.1.1. 機能拡張	6
2.1.2. リリースノート	6
2.1.3. 廃止された機能	7
2.2. SERVICE TELEMETRY FRAMEWORK 1.4.1	7
2.2.1. バグ修正	7

前書き

多様性を受け入れるオープンソースの強化

Red Hat では、コード、ドキュメント、Web プロパティにおける配慮に欠ける用語の置き換えに取り組んでいます。まずは、マスター (master)、スレーブ (slave)、ブラックリスト (blacklist)、ホワイトリスト (whitelist) の 4 つの用語の置き換えから始めます。この取り組みは膨大な作業を要するため、今後の複数のリリースで段階的に用語の置き換えを実施して参ります。詳細は、[Red Hat CTO である Chris Wright のメッセージ](#)をご覧ください。

第1章 SERVICE TELEMETRY FRAMEWORK リリースの概要

本リリースでは、Service Telemetry Framework (STF)に新機能を追加し、STF に特有の問題を解決しました。

STF は他の Red Hat 製品のコンポーネントを使用しています。これらのコンポーネントのサポートに関する具体的な情報について

は、<https://access.redhat.com/site/support/policy/updates/openstack/platform/> および <https://access.redhat.com/support/policy/updates/openshift/> を参照してください。

STF 1.4 は、デプロイメントプラットフォームとして OpenShift Container Platform (OCP) バージョン 4.7 および 4.8 と互換性があります。

1.1. 製品サポート

Red Hat カスタマーポータルでは、Service Telemetry Framework のインストールと設定をガイドするリソースを提供しています。カスタマーポータルでは、以下の種類のドキュメントをご利用いただけます。

- 製品ドキュメント
- ナレッジベースのアーティクルおよびソリューション
- テクニカルブリーフ
- サポートケース管理
カスタマーポータルには <https://access.redhat.com/> からアクセスしてください。

第2章 SERVICE TELEMETRY FRAMEWORK のリリース情報

この Service Telemetry Framework (STF) リリースのサポート期間中にリリースされたアップデートに関する注意事項は、各アップデートに関連するアドバイザリーテキストに記載されています。

2.1. SERVICE TELEMETRY FRAMEWORK 1.4

このリリースノートでは、Service Telemetry Framework (STF) の本リリースをインストールする際に考慮すべき拡張機能および削除された機能について説明しています。

本リリースには、以下のアドバイザリーが含まれています。

[RHBA-2022:0298-05](#)

Service Telemetry Framework 1.4.0 - コンテナイメージ用のコンポーネントのリリース

2.1.1. 機能拡張

本リリースの STF では、以下の点が強化されています。

[BZ#2032659](#)

Service Telemetry のマニフェストに **backends.events.elasticsearch.version** パラメーターを追加し、STF が Elasticsearch Operator に要求する Elasticsearch のバージョンを指定できるようにしました。

[BZ#1949651](#)

セキュリティコンプライアンスを向上させるために、すべてのユーザーインターフェイスで認証を行う必要があります。その結果、Prometheus、Alertmanager、Grafana への HTTPS ルートが、これらのコンポーネントのデプロイ時にデフォルトで提供されるようになりました。OpenShift Container Platform 認証情報を使用して、新しく公開されたサービスを認証します。Grafana は、後方互換性のために、既存の basic-auth ログインオプションを維持しています。

[BZ#1977958](#)

Service Telemetry Framework (STF) は、Service Telemetry マニフェストの新しいパラメーター **observabilityStrategy** をサポートしています。

パラメーター **observabilityStrategy** を **none** に設定すると、Service Telemetry Operator は、AMQ Interconnect ルーター、およびメトリクスとセンサビリティ(API モニターリング)のための Smart Gateways を導入することになります。

observabilityStrategy パラメーターを **none** に設定すると、管理者は最小限の構成で STF をデプロイすることができ、その結果、Red Hat OpenStack Platform からの遠隔測定データが消費され、Smart Gateway を通じて Open Shift Container Platform で公開されることになります。

現在、このモードでイベント用 Smart Gateways を導入することはできません。

2.1.2. リリースノート

このセクションでは、推奨事項や STF の重要な変更点など、リリースに関する重要な情報をまとめています。お使いのシステムに最大限の効果をもたらすために、以下の情報を考慮する必要があります。

[BZ#2008523](#)

このリリースでは、Operator Lifecycle Manager (OLM) 内の OpenShift Container Platform ユーザーインターフェイスに UI ヒントを提供していた、手動で作成された x-descriptor が削除されました。

x-descriptor の削除により、UI システムは CustomResourceDefinition (CRD) で定義された API を使用することになりました。UI のヒントを維持することが容易になり、より多くの ServiceTelemetry オブジェクトの設定オプションが OLM UI で公開されます。

その結果、特に複数のクラウド環境において、ServiceTelemetry オブジェクトの設定が容易になりました。

BZ#2017960

Service Telemetry Framework 1.4 をインストールすると、Service Telemetry Operator が Smart Gateway Operator 以外の Operator を依存関係にあるものとしてインストールする必要がなくなります。そのため、メトリクスやイベントを保存する必要がある場合、管理者は他の依存する Operator をインストールする必要があります。詳細については、**Service Telemetry Framework** ガイドのインストールの章を参照してください。

BZ#2026005

このリリースでは、**servicemonitorManifest** パラメーターは、Service Telemetry Operator が Smart Gateways を作成する際に作成されるマニフェストを上書きしなくなりました。**servicemonitorManifest** パラメーターを使用して、メトリクス Smart Gateways 用に作成されたオブジェクトに影響を与えることなく、追加の Service Monitor オブジェクトを作成できるようになりました。

2.1.3. 廃止された機能

本リリースの STF では、以下の機能が削除されています。

BZ#1989569

これまでは、Service Telemetry Operator をサブスクライブすると、Operator Lifecycle Manager によって依存する Operator がインストールされていました。この機能は今回のリリースでは削除されています。

これらの Operator の一部は Red Hat Operator CatalogSource の範囲外 (非製品化 Operator) であるため、Service Telemetry Operator のインストールには必要なくなりました。Service Telemetry Framework をデプロイする管理者は、ServiceTelemetry オブジェクトをデプロイする前に、これらのサードパーティーの Operator をサブスクライブしてください。

Smart Gateway Operator のみ、Service Telemetry Operator の依存関係としてインストールされません。

2.2. SERVICE TELEMETRY FRAMEWORK 1.4.1

このリリースノートでは、Service Telemetry Framework (STF) の本リリースをインストールする際に考慮すべき拡張機能および削除された機能について説明しています。

2.2.1. バグ修正

これらのバグは本リリースの STF で修正されています。

BZ#2051615

Ceilometer のメトリックは sg-core によって適切に処理されないことがありました。これにより、一部の Ceilometer メトリックが Prometheus に保存されませんでした。本リリースでは、メトリックの処理がより堅牢になりました。sg-core は Ceilometer の大きなメッセージをサポートするように強化されましたが、sg-bridge リングバッファを介して大きなメッセージを渡すには、追加の変更が必要になります。この機能を完全にサポートするために必要な変更は RHBZ#2053681 で追跡されています。

